

道の駅もりおか渋民の建物配色 ～啄木の短歌から～

道の駅もりおか渋民は、啄木が過ごした時代の渋民の風景である、ふるさとの山を背景に家々の屋根が並ぶ様子をイメージし、6つの棟で構成しています。

各棟の外壁には、啄木の歌集「一握の砂」中、ふるさと渋民に想いを馳せて歌った「煙 二」に収録された作品のうち、6つの歌から想起される色を用いています。

■建物概要

A棟：トイレ、休憩・情報提供施設、子どもの遊び場

B棟：産直・物販、事務室

C棟：フューチャーセンター

D・E棟：テナント（10坪×4室、20坪×2）

F棟：レストラン



A棟 わかれをれば妹いとしも 赤き緒の 下駄など欲しとわめく子なりし

幼い時に「赤い鼻緒の下駄がほしい」と泣きわめいていた妹のことを思い出す。今は離れて暮らしている妹がいとしいことだ。少し遠い記憶として残る情景の中の「赤」であることから、少し色褪せ、やわらかな光に照らされたような色合いとしました。

B棟 あはれ我がノスタルジヤは 金のごと 心に照れり清くしみに

ああ、自分の郷愁の思いは、金のように、濁った心を洗い清めて照り輝いている。ふるさと、過去のすべてのものへの懐かしさが放つ、金のような高貴な光。豪華さではなく落ち着きとあたたかさのある色としました。

C棟 ふるさとの停車場路の 川ばたの 胡桃の下に小石拾へり

渋民の家から好摩駅に向かう川端の道の途中、ふと何げなく胡桃の木の下で小石を拾ったこともあったことよ。ふるさとの停車場とは渋民ではなく、好摩のこと。旅立ちの駅へ向かう道沿いに静かに立つ胡桃の木をイメージしました。

D棟 馬鈴薯のうす紫の花に降る 雨を思へり 都の雨に

都会に降る雨に憂鬱になる時、ふるさとのじゃがいも畑に咲く馬鈴薯のうす紫の花に降っていた雨を思い出し、郷愁の思いがこみ上げる。天候は雨。明るいうす紫ではなく、花卉を湿らす雨を勘案した色としました。

E棟 やはらかに柳あをめる 北上の岸边目に見ゆ 泣けとごとくに

柔らかく柳が青く芽吹いている北上川の岸边が、今でも目に浮かんできて、望郷の涙を誘うようだ。北上川の風景と柳の葉のやわらかさを思い浮かべるような緑系の色を採用しています。

F棟 ふるさとの山に向ひて 言ふことなし ふるさとの山はありがたきかな

ふるさとの山に真正面から向かっていると、ただただ感無量で言葉は必要なく感謝している。故郷の山はありがたいなあ。光と空気との兼ね合いで青みがかかる遠景の岩手山を想起する色としました。

※道の駅の場所は盛岡市景観計画に定める「眺望景観保全地域（渋民公園から姫神山眺望領域）」に該当し、使用できる色に制限があるため、景観に配慮した低彩度の色としています。